

はままつ ひくま ちゆう ねん

浜松曳馬中2年 堀田さん

アカハライモリをかたどった手作りの帽子をかぶる堀田智仁さんと、自宅で飼育する約160匹のイモリ＝昨年11月、浜松市中区



イモリ研究に情熱

小学3年の時からイモリの研究を続けている中学生の「イモリ博士」がいる。浜松市立曳馬中2年の堀田智仁さん(13)＝中区＝。最近取り組んだのは、準絶滅危種アカハライモリの効率的な繁殖方法を探る研究。理科研究の成果を発表するプレゼンテーションコンテスト(トップガン教育システム協議会主催)で最高賞を受賞し、同イモリの研究で小学6年から3年連続でトップ評価を得た。

今回の研究は、毎年観察に出掛けていた池で、アカハライモリの姿が見られなくなつたため、減少に危機感を抱いたのがきっかけ。大人(成体)のイモリは飼育しやすいが、成体になる前に陸で過ごす「幼体期」は数年に及ぶ上、餌やりに手間がかかるという。堀田さんは新たな飼育方法を探つた。

発見は偶然だった。卵からふ化したばかりの「幼生期」のイモリが共食いしてけがしたために隔離した際、動きやすいよう水槽に水草を敷きつめてみた。すると、陸上生活を送るはずの幼体に、そのまま水中で成長するようになった。この発見を生かして

成果発表 3年連続トップ評価

効率的な繁殖法 探る

「自分と同じ肺呼吸なのに、なぜ長時間水中に潜つていられるのか」。小学3年の時に抱いた疑問が研究の始まりだった。以来、イモリのあくびのようなしぐさに目を付けて水中で酸素を取り込んでいる可能性を指摘するなど、さまざまな研究を続ける。

静岡大の理系人材育成事業を通して堀田さんをサポートする工学部の藤間信久教授は「失敗してもくじけず、別の方法を考えながら取り組んでいる。将来の科学者として有望な資質」と評する。

堀田さんのイモリに関する疑問は尽きない。「低コストで大量飼育する方法をもっと探りたい。喉の仕組みや、尾に入っている毒が体に備わる時期も調べていきたい」と意欲を見せる。

(浜松総局・土屋咲花)

2020年
1月9日
朝刊

- ① 科学者として有望な資質とはどのようなものか。記事中から探し、□で囲みなさい。
- ② イモリ研究に情熱を持つ中学2年生の堀田さんに「応援の言葉」を贈りたい。どのような言葉を贈れば、堀田さんが喜ぶと思うか。あなたが考えた応援の言葉を30字以上40字以内で書きなさい(句読点を含む)。

←30字
←40字

年 組 名前